



日医工株式会社  
代表取締役社長

田村 友一さん

## お客さまに必要とされ続ける銀行に

### ビジネスモデルの 思い切った転換

私が社長に就任したのは38歳の時ですが、その少し前まで、当社の業績はあまり芳しくありませんでした。当時、私たちは新薬開発も手掛けていて、数品目の研究を続けていましたが、自分たちが期待するような結果を出せずに苦しんでいたのです。もっと本音を言えば、新薬開発を手掛けるには企業規模がまだ幼くて、持っている資産を注ぎ込みすぎたことで会社自体が厳しくなっていました。新薬が売れて投資コストを回収し、さらには利益を生み出すことができれば夢のような話ですが、不幸にして私たちはその夢には巡り合えず、新薬開発からの撤退を余儀なくされたんです。

ですが、だからこそ思い切つて、創業当初のジェネリック医薬品に特化したビジネスモデルに180度転換することができました。もし新薬開発が成功していれば、そのまま開発を続けていかなければならなかったもので、どこかで限界を迎えていたかもしれません。そういった意味では、新薬開発を止める決断をできたことは、非常にツキがあったと思います。改革を進める上では大変なことも多くありましたが、絶対にお社は潰さない—そんな強い思いを持って取り組んでいました。

### 世界への挑戦

新薬メーカーからジェネリックメーカーに生まれ変わつてからは、まずは企業規模の拡大を念頭に置いてきました。幸いにして、企業規模の拡大だけでなく利益も付いてきて、様々な努力をしながら事業再編を行ってきました。ある一定の規模までは会社を大きくすることはできましたが、一方で、日本のジェネリックメーカーとして今後生き残っていくことに大きな壁を感じ始めました。そんな中、サノフィ<sup>※</sup>と業務提携を結ぶことができたのは、私たち

にとって非常に大きな出来事でした。

通常、特に外資系企業であれば、出資するにあたってはマジORITY（多数）を持つことを重要視している会社がほとんどだと思っています。ですが、彼らは私たちの考えや、何より「私たちの進むべき道は自分たちで決める」という私の強い想いを理解してくれました。彼らの持っているノウハウや、製品を上手く取り込むことができたのは本当に良かった。最高のパートナーを見つけることができたと感じています。

（※2010年5月28日フランスの大手製薬メーカーであるサノフィ・アベンティスグループ当時）



との戦略的提携に合意、同社との共同出資により、日医工サノフィアベンティス（株）を設立。その後、サノフィアベンティス（株）がサノフィ（株）に商号変更したのに伴い、同社も日医工サノフィ（株）に商号変更。

### 人との信頼関係を大切にした

私の名前は「友一」と書きますが、「友達が一番」という想いを込めて両親が名付けてくれました。そういう意味で、人との関わりというか、信頼関係はとても大切になっています。

人との信頼関係を築く上では、相手がどんなことを考えているのか、常に気を配るように心掛けています。たとえ文化や言葉は違っても、自分の気持ちに正直になつてそれを真々直ぐに相手に伝える。あとは、スピードの決断も重要です。先代社長である私の父がそうでしたが、それぞれの時点での判断に関してはとてもスピード感がありました。私も創業家としてスピード感のある判断がしやすい環境にいます。だからこそ、それをしっかりと活かさなければと感じています。そして、ごく当たり前のことだと思いますが、いつも笑顔で明るく接すること。社外の人には勿論、社員に対しても立場の隔たりなく、こうした態度で関わるように心掛けています。



### Profile

たむら ゆういち / 1962年富山県生まれ。84年学習院大学文学部心理学科卒業、同年住友商事株式会社に入社。経理・営業などを経て、87年シアトルバシフィック大学へ留学。帰国後、89年に日本医薬品工業株式会社（現、日医工株式会社）に入社。取締役経営企画室長・代表取締役専務営業本部担当などを経て、2002年代表取締役社長に就任。

### お客さまに必要と され続ける銀行に

日頃から当社の社員に言っていることなのですが、世界中の患者・薬剤師・医師・卸売業者・企業の方々にとって、常に必要とされる企業であり続けたいと思っています。企業が成長し続けるためには、もちろんその企業自身の努力が不可欠ですが、やはり銀行のサポートも大きく影響しています。そういった意味では、銀行の皆さんに高く評価していただけるような企業努力をしていかなければなりません。

個人的な話ですが、私が就職して最初に作った口座は御行でした。非常に親しみを覚えていますし、だからこそ御行には頑張っていました。だからこそ御行には頑張っていました。だからこそ御行には頑張っていました。だからこそ御行には頑張っていました。だからこそ御行には頑張っていました。